

第3回高齢者福祉専門分科会 議事録

- ・日 時：令和7年8月28日（木）
- ・場 所：佐世保市中央保健福祉センター3 階 デイケア室
- ・出席委員：12名（全員出席）
＜分科会委員＞ 池永英恒委員（会長）、鷺田由香里委員、吉田勝彦委員、森田学委員、井福直美委員、松尾幸弘委員、岩崎善光委員、天羽隆之委員、竹内久美子委員、芥川卓也委員、井手佳位輔委員、久田貴幸委員

1. 議題

- 議題1 前回（第2回）の振り返り
- 議題2 利用状況の分析結果報告
- 議題3 見直し案の提案
- 議題4 次回協議日程 ※議事録割愛

2. 主な意見

議題1 前回（第2回）の振り返り

特に意見なし

議題2 利用状況の分析結果報告

A委員：驚くほど乗車人数とか回数が多いとの印象だが、高齢者の社会参加にそれだけ寄与していることが改めて感じられた。

議題3 見直し案の提案

事務局から：資料のとおり6案を提示

A委員：現行制度を元とする案1、案2では、この制度の一番大きな課題である、不公平感の解消には直接つながらない感じがする。

J委員：案1、案2とも、事業者に徴収の負担が生じる。
案3はシステムの難しいとのことで検討材料がない。
そうすると、案4か案5かと思う。

A委員：案4、案5については公平性が担保されているという点が良いと思うが、4案の5,000円では、ちょっと少ないかと思う。

案3についても、公平性を担保するという点ではよいと思う。

L委員：案5が、公平性があり良いと思う。

今の制度は本人申請しかできないが、家族でも申請できる形になれば、交付者数は増加して良いと思う。

B委員：紙への対応を全事業者にお願いするのは負担となるので、併用でよいと思うが、ICカードだと買い物等にも使えてしまう。

案3については、金額に差がある根拠が薄いと思う。

事務局：そこは性善説でと思っているが、悩んでいるところである。

A委員：外出支援という点では、寝たきりの人等明らかに交通費として使えないような方もＩＣカードなら使えてしまう。目的外使用を生む状況を作らないよう考える必要があると思う。

J委員：皆さんの意見から、案４か案５かと思っている。

ＩＣカードを交通費以外に使用されても、その人のためになればよいのでは。

D委員：案４か案５か考えると、予算縮減に目標があるのか。それとも市民の利便性や平等性の担保に重きを置いているのか。

事務局：縮減できた方がいいが、一方で、この制度は高齢者の健康増進に資する役割もあるため、議会でも不公平感の是正の解消という点が最優先となる。

金額については委員の議論に委ねたい。

E委員：ＩＣカードの利用を限定するというのは難しいと思うが、発行にあたり目的をしっかりと周知し、安易に他用途に使わないようにしてほしい。

G委員：案５がいいと思う。前回のハイブリッド案での、歩いてもらうという方向性も、私としては捨てがたいが。

分科会長：ハイブリッドは、経費が余ればとの前提であった。

まず案の方向を決めたいと思うが、案４か案５の方向性でよいか。

～ 各委員了承 ～

J委員：年１０万円以上使用している人が２,３００人いて、約４億円使用している。

使いすぎの方に我慢してもらい、使えていない人にも使える制度となり、市も約１億円程度の予算縮減が可能なあたりが、三方良しとしていいと思うが。

金額も、８,０００円でも良いと思う。

D委員：市が今後、周知説明をしていく中で、今のお話の「三方良し」という考えが各方面に説明しやすく、良いと思う。

K委員：バスの廃止路線も増えており、縮減額をそちらに回すというのもいいと思う。

分科会長：そのような意見を答申の中に入れるのか、入れないのかは考えないといけないが、そういった使い道次第で、予算縮減も大事なことで、と考えられる。

８,０００円だと予算縮減効果は約１億円とのことであるが、その辺が妥当な額ではないか。皆さん平等に、余った予算は他の交通がないところの補助に回す、とすれば、市民の皆さんへの理解も得やすいと思う。

分科会長：案としては、案４、金額は８,０００円ということでよいか。

～ 各委員了承 ～

分科会長：次回、縮減した予算の使い道について、各委員のご提案があれば考えていただきたい。

結

論：・案４を変更し、年８,０００円の案とする。

・次回答申作成のため、縮減した予算での提案があれば、考えていただきたい。